

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	論理国語	3	B	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、課題テスト、小テスト、課題など	課題、課題確認テスト、定期考査、小テスト、プレゼンテーションなど	課題、授業準備、授業態度、レポート、小テスト、やり直し、プレゼンテーション、ノート提出など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	1 時代をひらく 「最初のペンギン」 茂木健一郎 「豊かさと生物多様性」 本川達雄 [書く]短い論文を書いて読み合おう 3 科学と人間 「鏡としてのアンドロイド」 石黒浩 「ロボットが隣人になるとき」 野矢茂樹
2学期	4 豊かな認識 「言葉は『ものの名前』ではない」 内田樹 「科学的『発見』とは」 小川眞里子 [書く]資料を活用して論述しよう 5 知のゆくえ 「知識における作者性と構造的性」 吉見俊哉 「もう一つの知性」 姜尚中
3学期	6 明日をみつめて 「ホンモノのおカネの作り方」 岩井克人 「未来のありか」 若林幹夫 * 「共通テスト」 対策演習

■何で学ぶか（教材）

教科書：「新編論理国語」 東京書籍
副教材：「新編論理国語 学習課題ノート」 東京書籍
「常用漢字ダブルクリア」 尚文出版

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

- ①筆者の主張を的確に捉える
 - ・接続詞に注意して、文章の構造を捉えましょう。(対比など)
 - ・本文に書き込みをしましょう。(キーワードや重要な文には線を引く)
- ②自分の意見を持つ
 - ・毎時間の最後に自分の考えを書きましょう。(プリントに自分の考えを書くスペースを設けます)
- ③小論文が書けるようになる
 - ・入試に必要な人も出てきます。文章を書く練習をしておきましょう。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	文学国語	3	B (文系)	2

■目標

「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか (目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができるようにする。	文学的な文章や作品などを書いたり読んだりして、その内容や表現等を吟味したり評価したりすることなどを通して、言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練し、自らの言葉に対する感性を磨く。また、他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりすることを通して、自分で新しい考えや発想を生み出す力をつける。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを目指し、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心を持ち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにする。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか (学習内容)

学期	学習内容
1学期	現代の小説 (三) 『旅する本』 角田光代 現代の小説 (二) 『山月記』 中島敦
2学期	現代の小説 (二) 『清兵衛と瓢箪』 近代の小説 (四) 『卒業』 『ひよこの眼』 山田詠美
3学期	近代の小説 (四) 『ひよこの眼』 山田詠美 戦争と文学 (二) 『血であがなったもの』 大田昌秀

■何で学ぶか (教材)

教科書『高等学校 標準文学国語』(第一文国710)
準拠ノート『標準文学国語 学習課題集』

■どのように学ぶか (授業の方法/学び方)

本文の読解に留まらず、教科書を読んで感じたこと、考えたことなど生徒自身の思いを表現する機会を多く設ける。また、自分と他人の文章や発表を比較し、吟味したり検討したりすることを通して、考え方やものの見方を豊かにする。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	古典探究	3	B	2

■目標

古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	(古文) ・随筆を味わう『枕草子』より「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」 ・歌物語を楽しむ『伊勢物語』より「東下り」 (漢文) 1 史記を読む『項羽と劉邦』より「鴻門之会」「四面楚歌」
2学期	(古文) ・歴史物語を読む『大鏡』より「三船の才」「道長、伊周の競射」 ・歌話・歌論を読む『古今和歌集仮名序』より「やまと歌は」 (漢文) ・三国志の世界『十八史略』より「水魚之交」「死諸葛走生仲達」
3学期	(古文) ・作り物語を味わう『源氏物語』より「光源氏の誕生」「若紫」 (漢文) ・中国の思想 【儒家の思想】【人の本性とは】【道家の思想】

■何で学ぶか（教材）

教科書『新編 古典探究』（東書古探701）
準拠ノート『新編古典探究 学習課題ノート』
『新明説総合古典文法』
『新明説総合古典文法 基礎練習ノート』
『漢文の習得』
『入試対策ベストセレクション 古文単語325』

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

文法書や辞書、タブレット等を駆使して、生徒が主体的に学習をおこなう。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
地理歴史	日本史探究	3	B	4

■目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	定期考査、レポート（ワークシート） 準拠ノート、授業プリント	定期考査、レポート（ワークシート） 準拠ノート、授業プリント	授業活動、レポート（ワークシート） 準拠ノート、授業プリント
割合	30%	40%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第1編 原始・古代の日本と東アジア 第1章 国家と文化の形成 第2章 古代国家の確立 第2編 中世の日本と世界 第3章 中世社会の成立
2学期	第2編 中世の日本と世界 第4章 中世社会の展開 第3編 グローバル化と私たち 第5章 統一政権の成立 第6章 幕藩体制の展開 第4編 近現代の地域・日本と世界 第7章 大日本帝国の展開 第8章 大日本帝国とデモクラシー
3学期	第4編 近現代の地域・日本と世界 第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦 第10章 現代日本社会の形成と展開

■何で学ぶか（教材）

- 教科書：「精選日本史探究」（実教出版）
- 副教材：「精選日本史探究演習ノート」（実教出版）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

単元・章・節ごとに提示される学習課題について、教科書に記載されている本文や資料群等を活用し、個人またはグループを通して、課題へのアプローチをしていく。また、内容をさらに深めるために、タブレットPCを利用して教科書のQRコード動画や画像などを活用していく。
上述のような学習活動と並行して、1テーマごとに該当する準拠ノート（作業含む）をまとめることで、授業内容の定着を目指していく。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
公民	政治・経済	3	B	2

■目標

社会の在り方にかかわる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方にかかわる情報を適切かつ桜花的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。
 また、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念を通して、現実社会にみられる複雑な課題を把握し、説明する。それとともに、身に付けた判断基準を根拠に、妥当性や効果、実現可能性などを議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深める。 また，国際社会の変遷，人権，領土などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解を深める。	民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現する。 また，国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に，国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察し，表現する。	よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，日本ならびに各国の主権を尊重し，平和と繁栄を図ることの自覚を深める。
評価方法	定期考査（知識分野） 準拠ノート整理（知識分野）	定期考査（思考・判断分野） 準拠ノート整理（思考・判断分野） 小論文（600字程度）	小論文（600字程度） 授業の出席状況 課題の提出状況
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第1部 現代日本の政治・経済（重要用語） 第2部 現代の国際政治・経済（重要用語） 第1部 現代日本の政治・経済 第1編 現代日本の政治 第2編 現代日本の経済 第3編 現代日本における諸課題の探究
2学期	第2部 現代の国際政治・経済 第1編 現代の国際政治 第2編 現代の国際経済 第3編 国際社会における諸課題の探究
3学期	「政治・経済」の学習を振り返ってみよう

■何で学ぶか（教材）

教科書『最新政治・経済』（実教出版政経703）
 準拠ノート『最新政治・経済 演習ノート』
 DVD『映像の世紀』（NHKエンタープライズ）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

単に説明を聞き、考え方を暗記することで機械的に問題を解くのではなく、新聞などのデータを分析・整理して問題の本質を理解し、適切に判断する力や、周囲と協働できる力、更には社会参画を視野に入れた公民として必要なスキルを身に付けること。
 またタブレットを利用して、教材にはない資料や記事等を紹介して考察をさせたりすることで、理解を深める。
 コの字型の一斉授業ならびに3～4人のグループによる考察を深める作業を行う。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数 学	数学Ⅱ・Ⅲ・C	3	B (理系)	1 + 4 + 1

■目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 確率分布、複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法、積分法の考え方を理解し、基礎的な知識を習得する。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、それらを活用するようになる。 3 数学的な見方や考え方の良さを知る。 4 大学入学共通テストや各大学の個別学力試験に対応できる学力を身に付ける。
--

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか (目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。 ②公式を理解する。 ③公式や技法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●応用例題や発展問題、章末問題を考察したり、解法を理解したりする。 <ol style="list-style-type: none"> ①応用問題と向き合い、根気強く解法を理解する。 ②習得した技法や解法を応用し、問題解決に取り組む。 ③答案として洗練された表現を表出したり、独自の別解を編み出したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の課題を解き、提出期限を守る。 ●授業中、ポイントや気づきをノートにまとめる。 ●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的に行う。 ●集中力して授業に取り組む。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題自己評価 (振り返りシート)	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題自己評価 (振り返りシート)	課題、授業準備、訂正ノート 自己評価 (振り返りシート)
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか (学習内容)

学期	学習内容
1 学期	(数学 B) 2 章 確率分布と統計的な推測 (数学 C) 2 章 複素数平面 3 章 平面上の曲線 (数学Ⅲ) 1 章 関数 2 章 極限 3 章 微分法 4 章 微分法の応用
2 学期	(数学Ⅲ) 5 章 積分法とその応用 「大学個別学力試験」対策 「共通テスト」対策
3 学期	「共通テスト」対策 「大学個別学力試験」対策

■何で学ぶか (教材)

教材	
教科書	数学Ⅲ 数学 C
補助教材	エクセル数学 B+C ニューグローバルマーチ 共通テスト PickUp
宿題プリント 日々の課題	

■どのように学ぶか (授業の方法/学び方)

授業の方法・学び方 <ol style="list-style-type: none"> 1 始業前に学習準備をする 2 (状況に応じて) 小テストを解く 日々の課題の丸付け 3 授業活動を行う <ul style="list-style-type: none"> ケース 1 <ol style="list-style-type: none"> ①教師による例題等の解説 ②板書書写と内容理解 ③練習問題を解く ④公式や解法の理解が深化する。 ケース 2 <ol style="list-style-type: none"> ①発展問題を各グループに提示する ②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。 ※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。 ③解法を発表し、クラスで吟味する。 ④学んだ内容を確認しまとめる。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数 学	数学Ⅱ・C	3	B (文系)	4 + 2

■目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 確率分布、複素数平面、平面上の曲線の考え方を理解し、基礎的な知識を習得する。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、それらを活用するようになる。 3 数学的な見方や考え方の良さを知る。 4 大学入学共通テストや各大学の個別学力試験に対応できる学力を身に付ける。
--

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか (目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。 ②公式を理解する。 ③公式や技法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●応用例題や発展問題、章末問題を考察したり、解法を理解したりする。 <ol style="list-style-type: none"> ①応用問題と向き合い、根気強く解法を理解する。 ②習得した技法や解法を応用し、問題解決に取り組む。 ③答案として洗練された表現を表出したり、独自の別解を編み出したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の課題を解き、提出期限を守る。 ●授業中、ポイントや気づきをノートにまとめる。 ●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的に行う。 ●集中力して授業に取り組む。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題自己評価 (振り返りシート)	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題自己評価 (振り返りシート)	課題、授業準備、 訂正ノート 自己評価 (振り返りシート)
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか (学習内容)

学期	学習内容
1 学期	(数学 B) 2 章 確率分布と統計的な推測 1 節 確率分布 2 節 正規分布 3 節 統計的な推測 (数学 C) 2 章 複素数平面 1 節 複素数平面 3 章 平面上の曲線 1 節 2 次曲線 2 節 媒介変数表示と極座標 数学ⅠAⅡBの総復習
2 学期	数学ⅠAⅡBの総復習 「大学個別学力試験」対策 「共通テスト」対策
3 学期	「共通テスト」対策 「大学個別学力試験」対策

■何で学ぶか (教材)

教材	教科書	数学 B 数学 C
	補助教材	エクセル数学 B+C ニューグローバルマーチ 共通テスト PickUp
	宿題プリント	日々の課題

■どのように学ぶか (授業の方法/学び方)

授業の方法・学び方
<ol style="list-style-type: none"> 1 始業前に学習準備をする 2 (状況に応じて) 小テストを解く 日々の課題の丸付け 3 授業活動を行う <ul style="list-style-type: none"> ケース 1 <ol style="list-style-type: none"> ①教師による例題等の解説 ②板書書写と内容理解 ③練習問題を解く。 ④公式や解法の理解が深化する。 ケース 2 <ol style="list-style-type: none"> ①発展問題を各グループに提示する。 ②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。 ※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。 ③解法を発表し、クラスで吟味する。 ④学んだ内容を確認しまとめる。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	物理	3	B(理系)	5

■目標

物理基礎との関連を図りながら、物理的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせることが重要である。幾つかの事象が同一の概念によって説明したり、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用したりする活動を行う。	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。そのためには、日常生活や社会における科学の有用性を実感できるようにする。
評価方法	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	課題、授業準備、レポート、考査のやり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1編 力と運動 1章 剛体に働く力のつり合い 2章～4章 さまざまな運動 5章 運動量
2学期	2編 熱 1章 気体分子の運動と圧力 2章 気体の状態変化 3編 波 1章 波の性質 2章 音 3章 光
3学期	4編 電気と磁気 1章 電界と電位 2章 電流 3章 電流と磁界 4章 電磁誘導と電磁波

■何で学ぶか(教材)

・教科書：物理(数研出版)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業内では、映像教材や画像・音声のデータなどを用いて、学習内容と社会との関わりを深く理解できるよう工夫する。実際に演示が難しい内容でも動画を通して確認することで理解を深めるようにする。
「エネルギー」の観点を軸に物理基礎を学ぶ中で、自らもエネルギーの循環の中に存在していることを自覚し、多面的な考え方を習得する。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	化学基礎	3	B(文系)	2

■目標

日常生活や社会との関連を 図りながら物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察・実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、発表の場を設け、科学的に探究する力を育てる。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	確認テスト、定期考査 小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査 小テスト、観察・実験	課題、授業準備、レポート、 考査のやり直し、 プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 序章：化学と人間生活 第I章：物質の校正 <ul style="list-style-type: none"> 第1節：物質とその構成要素 第2節：物質と化学結合
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 第II章：物質の変化 <ul style="list-style-type: none"> 第1節：物質と化学反応式 第2節：酸・塩基とその反応
3学期	<ul style="list-style-type: none"> 第II章：物質の変化 <ul style="list-style-type: none"> 第3節：酸化還元反応

■何で学ぶか（教材）

<ul style="list-style-type: none"> 教科書：高等学校 新化学基礎（第一学習社）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

教科書の暗記にならないように、問題の本質を理解できるように、話し合いの場を多く設けるようにする。
 多くの情報の中から正しい情報を判断できる力を身につけることができるよう、自分で考える癖をつける。
 タブレット端末を用いて、視聴覚動画や振り返り動画を個別に視聴できるようにする。
 問題演習を通して、大学入試に必要な考え方・思考力を養う。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	化学	3	B(理系)	3

■目標

化学基礎までの学習を踏まえて、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、実験レポートを作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	確認テスト、定期考査 小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査 小テスト、観察・実験	課題、授業準備、レポート、 考査のやり直し、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第Ⅲ章 無機物質 第1節 非金属元素の単体と化合物 第2節 典型金属元素の単体と化合物 第3節 遷移元素の単体と化合物 第4節 無機物質と人間生活
2学期	Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物
3学期	第Ⅴ章 高分子化合物 第1節 糖類 第2節 タンパク質 第3節 合成高分子化合物

■何で学ぶか（教材）

- ・教科書：高等学校 化学（第一学習社）
- ・補助教材：ニューグローバル化学基礎+化学（東京書籍）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

教科書の内容を暗記し答えるのではなく、現象の本質を捉えて理解できるようにしていく。
 演示実験や実験動画を通して、化学的な事物・現象に対して主体的に関われるようにする。
 問題演習を通して、大学入試に必要な考え方・思考力を養う。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	生物基礎	3	B(文系)	2

■目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。
評価方法	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	課題、授業準備、レポート、考査のやり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	序章 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とのはたらき
2学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム
3学期	第4章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系の生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全

■何で学ぶか（教材）

- ・教科書：新編 生物基礎（数研出版）
- ・補助教材：リードLightノート 生物基礎（数研出版）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

授業内では、映像教材や画像・音声のデータなどを用いて、学習内容と社会との関わりを深く理解できるよう工夫する。
また、身近な生物や生物現象に係る社会問題等を調べ発表しあうことにより、これからの社会で生きていく現代人として必要な教養と道徳心、自然環境保全に対する態度等を養う。
問題演習を通して、大学入試に必要な考え方・思考力を養う。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Communication III	3	B	3

■目標

- 短めの会話やスピーチを自然な速さで話されても、内容を理解することができる。(聞くこと)
- 英文の種類や読む目的に応じて、詳細を理解することができる。(読むこと)
- 前もって提示された話題について、自分の意見を説明でき、グループ内でお互いに意見交換をすることができる。(話すこと)
- 提示された話題などについて、パラグラフの構成やディスコースマーカーに気をつけ、3～5パラグラフの英文を書くことができる。(書くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	聞く・読む・話す(やり取り/発表)・書くの4技能5領域の統合的な言語活動へと展開していくことができるようにする。	日常的な話題・社会的な話題を英語の言語活動を通じて、的確に情報や考えを理解したり、適切に表現したりすることができるようにする。	中学校の既習内容及び基本事項の定着を重視するとともに、段階的に学習することができるようにする。
評価方法	定期考査、授業、小テスト、課題	定期考査、授業、小テスト、課題	課題、小テスト、授業態度等
割合	40%	35%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	Lesson 1 A Chance for Everyone to Shine Lesson 2 Protecting Our Brains from Smartphones Lesson 3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition
2学期	Lesson 4 Paving the Way to a More Inclusive Society Lesson 5 Discovering Your Answers Through Art Thinking Lesson 6 Super Sniffers Saving the World Lesson 7 Perceptions of Time in Different Cultures Lesson 8 The Thawing Permafrost: Earth's Warming Call
3学期	Lesson 9 How We Are Influenced by Advertising Lesson 10 What Makes a Virtual Community?

■何で学ぶか(教材)

- BLUE MARBLE English Communication III (数研出版)
- Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd Edition (啓林館)
- Data Base 3300 使える英単語・熟語 (桐原書店)
- Transfer course C (桐原書店)
- Listening Essentials 1.5・2 (啓隆社)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

既習事項を基に、長文の詳細を理解していくようにする。予習プリントを使うので、指示されたところは必ず予習して、準備をした上で授業に臨む。わからない単語があれば紙の辞書あるいは電子辞書を用い、インターネットは利用しない。(インターネットに載っている意味は数が少なく、求めているものが載っていないことが多い)
総合的に力をつけるために、単語の小テストも実施する。小テストも必ず対策して臨むこと。

令和5年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Logic and Expression III	3	B	2

■目標

- 「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きの役割を理解している。
- 一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを多様な文や語句を用いて話して伝えることができる。(話すこと)
- 日常的・社会的な話題について、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。(書くこと)
- 短めの対話やアナウンスを聞いて、詳細な情報を聞き取ることができる。(聞くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりできる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	定期考査、授業、小テスト、課題	定期考査、授業、小テスト	授業、課題、レポート、プレゼンテーション等
割合	40%	35%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	Unit 1 LESSON 1 Survey Results LESSON 2 Writing an Email LESSON 3 Writing a Blog LESSON 4 Describing Activities LESSON 5 Suggesting What to Buy
2学期	LESSON 6 Making a Proposal LESSON 7 Making a Speech LESSON 8 Writing an Invention LESSON 9 Suggesting a Solution LESSON 10 Talking about the Future Unit 2 Situation 1 At the Airport Situation 2 Homestay Situation 3 Gifts from Japan Situation 4 Lost Items
3学期	Situation 5 Scheduling a Meeting Situation 6 Visitor Information Center Situation 7 At a Restaurant Situation 8 At the Doctor's Office Situation 9 Buying a Ticket Situation 10 At a Cafe

■何で学ぶか(教材)

MY WAY Logic and Expression II (三省堂)
Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd Edition (啓林館)
Next Stage 英文法・語法問題 [4th EDITION] (桐原書店)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

教科書は Unit 1 と Unit 2 に分かれている。Unit 1 ではある程度のまとまった長さの文章を書く練習やそれを基に発表する練習をする。Unit 2 では会話を中心としたやり取りを、実際に練習していく。自分の表現したいことを独力で書いたり、話したりできるようにするため、文法を定着させ、Useful Expressions を活用して文を作る必要がある。そのため、小テスト等で暗記できているか確認をする。

令和6年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	体育	3	全	2

■目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価方法	技術・技能テスト	グループノートの活用 段階別練習方法の工夫と実践	グループ活動の実践 用具準備・片付け活動 審判等の係活動実践
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	1 体づくり運動 2 選択Ⅰ【ダンス】 (ダンス：現代的なリズムダンス) 3 体育理論
2学期	1 選択Ⅱ【球技・武道】 (球技：ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー) (武道：柔道) 2 陸上競技（長距離走） 3 体育理論
3学期	1 選択Ⅲ【球技・武道】 (球技：サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球) (武道：柔道)

■何で学ぶか（教材）

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

<p>授業の方法・学び方</p> <p><授業の方法> 各単元の特性と魅力を理解させ、基本的技能の向上の方法について、模範演技などを行いながら段階別練習法などを提示する。また、特性に応じたグループ編成を行い、生徒同士が主体的に活動できる場を提供する。</p> <p><学び方> 各単元における特性や技能上達及び安全管理の方法について説明を聞き、基本的な技能の向上を目指すだけでなく、他者を認め、個の特性を生かした表現方法を工夫しながら積極的に活動に参加する態度を身に付けること。</p>
